

令和5年度施政方針

新型コロナウイルス感染症については、政府は、令和5年5月8日から感染症法上の位置づけを現在の「2類相当」から季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行することを決定しています。3年に及ぶコロナ禍からの社会経済活動の正常化に向けて、大きな転換期を迎えており、本市としまして、ウイズコロナ時代に対応していきます。

令和4年度は、シネマコンプレックスを併設した「ゆめタウン」誘致、「沢井製薬株式会社」新工場建設など、多くの事業者の皆様が本市を選んで進出していただくことができ、さらに、昨年11月にはふくおか嘉穂農業協同組合の「カホテラス」がオープンを迎えるなど、若者も高齢者も働ける場所の確保に向けた地域雇用の創出や定住人口の増加に向けた取組が着実に進んでいます。

また、本市におけるふるさと応援寄附金が2年連続して県内1位となるなど、「本市の魅力

力を多くの方々に広く発信する年」となりました。

令和5年度は、これまで取り組んできました魅力の「発信」に加え、未来を切り拓くための「始動の年」と位置づけ、「住みたいまち、住みつづけたいまち」を目指すために、「未来を担う子どもたちの成長を応援するまち」、「高齢者が元気で活躍できるまち」、「デジタル技術を活用した行政サービス改革」など、「すべては飯塚市民と、その未来のために」という思いのもと、積極的に「本物志向・未来志向」のまちづくりに取り組み、飯塚市の未来に向けて始動していきます。

このような取り組みの成果や流れを止めることなく、未来に向けた対策を講じていくことで、「進化を続ける元気な飯塚市」、「支え合い（愛）助け合い（愛）I（愛）が繋がるIizuka」の実現を目指し誠心誠意取り組みます。

人権・市民参画

人権尊重のまちづくりの推進

「飯塚市部落差別をはじめあらゆる差別の解消の推進に関する条例」に基づき、人権教育・啓発に総合的かつ計画的に取り組み、市民一人ひとりの人権が大切にされる人権尊重のまちづくりに努めます。

男女共同参画の推進

「第2次飯塚市男女共同参画後期プラン」に基づき、男女共同参画推進センター「サンクス」における啓発講座や、イクボス推進事業、女性活躍のための取組を推進します。

協働のまちづくりの推進

地域の課題を自らが解決できるような市民の力や地域の力を醸成し、自主自立した協働のまちづくりを進めるため、情報共有を図るとともに、必要な支援に努めます。

情報化の推進

「飯塚市地域情報化計画」に基づき、市民の利便性の向上を図るため、行政手続のオンライン化の推進やICTを活用した窓口業務の改善などに努めます。

市政情報の発信

広報誌、ホームページ、SNS、テレビなどそれぞれの媒体

の特性に応じ、必要な情報を必要とする人に速やかに届けられるような情報発信に向け、職員一人ひとりが発信者であるという認識のもと、あらゆる機会において本市の魅力をアピールします。

行政経営

行政経営

アウトソーシングやデジタル技術を積極的に活用して業務の効率化に努めます。

また、「飯塚市第二次行財政改革大綱」および「飯塚市第二次行財政改革後期実施計画」の計画期間が経過することから、今後の超少子高齢化による人口構造の変化に対応し、行政サービスを維持、向上できるように、デジタル・トランスフォーメーションや働き方改革、デジタル人材の育成といった視点を取り入れた新たな計画を策定し、効果的・効率的な行政経営の実現に向けて戦略的に取り組みます。

広域行政の充実

令和5年度からの「第2次嘉飯圏域定住自立圏共生ビジョン」に基づき、更なる圏域全体の活性化に努めます。

「第2次公共施設等のあり方に関する基本方針」に基づき、公共施設等の計画的な維持管理、適正配置による財政負担の軽減・平準化に取り組みます。

また、市として活用策がない公共施設等の跡地・跡施設をはじめとした未利用財産について、管理費の削減、売却による歳入を確保するため、民間への売却などを推進します。

健幸・子育て

健幸都市づくりの推進

市民の自主的な健康づくりを促進するため、「いいつか健幸ポイント事業」への参加を呼びかけるとともに、健幸都市の実現に向け、運動教室をはじめ講座・イベントなどについて、内容を充実させ実施します。

また、「第2次飯塚市健康づくり計画」および「第2次飯塚市自殺対策計画」の策定に取り組みます。

国民健康保険事業

特定健康診査受診率向上に取り組み、早期介入による生活習慣改善および重症化予防を図り、市民の健康づくりを支援します。

■飯塚市立病院

地元医師会や他の医療機関と連携を図り、救急科を中心とした救急医療の強化など、医療体制の充実に努めるとともに、飯塚医療圏域における地域の中核的病院としての役割を果たします。

■高齢者福祉施策

新型コロナウイルス感染症に対応した介護予防・フレイル予防の推進に加え、新たに高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施など関係機関と密接に連携をとりながら地域包括ケアシステムの更なる深化を図ります。

また、介護保険事業については、団塊の世代が75歳以上となる2025年を見据えて、高齢者支援のニーズや養護者を取りまく現状把握や課題分析を行い、令和6年度から8年度を計画期間とする「第9期飯塚市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画」を策定します。

■子育て支援の推進

核家族化が進み、地域のつながりも希薄となる中で、孤立感や不安感を抱くすべての妊婦・子育て家庭が安心して出産・子育てができる環境を整えるため、SNSを活用した伴走型の相談支援の充実や市独自の経済的支援の実施などに努めます。

■安心して産み育てやすい環境づくり

老朽化した築市・平恒両保育所の統合整備事業を令和6年度開所に向け推進します。

放課後児童クラブについては、子どもたちがコロナ禍の状況においても放課後を安全・安心に過ごせる場所として環境の整備に取り組みるとともに、「生きる力」の育成のために集団活動や教育的プログラムを実施し、学校や放課後子ども教室事業との連携強化を推進し、子どもたちの健全な育成と子育て家庭の支援の充実に努めます。

■障がい者福祉

「障がいのある人もない人も、ともにいきいきと暮らせる共生のまちづくり」を目指し「第4期飯塚市障がい者計画」および「第7期飯塚市障がい福祉計画・第3期飯塚市障がい児福祉計画」の策定に取り組み、支援を必要とする人が適切な障がい福祉サービスを利用できるように周知を図るとともに、障がいに関する正しい理解の促進に努めます。

■地域福祉

「第3期飯塚市地域福祉計画」に沿って市民、地域およびボランティア団体などの協働による「お互いを尊重し、支えあい、

助け合う協働の地域づくり」を推進します。

生活に困窮した方々への対応については、物価高騰や新型コロナウイルス感染症の影響などにより生活に困窮された方々に対し、生活保護制度、生活困窮者自立支援制度を適切に活用し、困窮状態からの早期自立に向けた迅速な支援を行います。

地域経済

■農林業の振興

農業従事者の高齢化や、後継者・担い手の減少が進んでいるため、新規就農者や認定農業者などの多様な担い手の育成や確保、また組織的活動への支援を行うことで、持続可能な地域農業の振興を図ります。

森林整備については、森林の持つ多面的機能を発揮させるため、森林整備基金や県補助事業を活用し、森林や放置竹林の整備、有害鳥獣被害などの地域課題の解決を図り、地域資源の保全に努めます。

■卸売市場

安全・安心な生鮮品を地域の方々に届けるための流通拠点として、さらなる品質管理の向上、安定供給を目指し、円滑な運営

と売上げの拡大に努めます。

■地場産業の振興と創業促進・産業の創出

産学官の連携を強化し、企業の新技術、新製品の開発、販路開拓などの事業活動を支援するとともに、先端的な情報技術の活用により技術者や企業の集積促進・創業支援の取組につなげます。

海外販路開拓と外国人材の活用については、海外事業者との公民連携も活用しつつ、市内企業のニーズを踏まえた情報提供や支援機関とのマッチングなどに取り組みます。

企業誘致については、積極的な誘致活動に取り組むための基盤づくりとして、工業団地の整備を進めるとともに、都市圏企業を中心に企業間のネットワークの構築を図り、多様な雇用を創出します。

また、新規の雇用者を中心に本市で働く方々の定住促進を図ります。

■公営競技事業

ミッドナイトオートレースの拡充およびオールスター・オートレースなどのグレードレースを開催し、売上拡大を図るとともに、メインスタンドの建替えによる、よりよい施設環境の整備を推進し、新たなファンの獲

得に努めます。

■商業の振興

利便性向上の一環としてキャッシュレス化の推進に取り組むとともに、中小・小規模事業者の事業継続支援のため、相談窓口の設置や消費喚起対策に取り組みます。

また、空き店舗対策や各種イベントの支援により、街なかへの集客を高めるとともに、商店街やイオン穂波店、ゆめタウンおよびカホテラスといった大型商業施設などの立地する周遊商業エリアを創出し、回遊性と滞在時間の向上を図り、「商都いづか」の復活に取り組みます。

特産品による商業の振興については、優れた地域資源や製品を「いづかブランド」として広くPRし、販路拡大や地域活性化に努めるとともに、筑前茜染を活用した製品の開発と歴史・文化の伝承に取り組みます。また、非常に好調であるふるさと納税の更なる寄附額の増加を目指すとともに、これまで培ってきた情報発信力を活用し、本市の魅力を全国にPRすることで、移住定住の促進へと繋がります。

■観光の振興

ゆめタウンに併設する映画館や新体育館を新たな地域資源と

して活用し、いづかスポーツ・リゾート、サンビレッジ茜、旧伊藤伝右衛門邸などの観光資源との相乗効果を発揮するとともに、周辺自治体の魅力ある取組との波及効果を高め、広域連携の推進による交流人口の増加を図ります。

■就労支援の充実と労働環境の整備

中小企業における人材の確保および育成を最大の課題と捉え、国・県・就労支援機関や産業支援団体と連携を図り、就業意識の向上と労働環境の充実を図るなど、就労支援に取り組めます。

また、これまでの小学校、中学校、高等学校および大学とのネットワークを基盤としたデジタル人材の育成を未来への投資と位置づけ積極的に推進するとともに、デジタル化による事業所の魅力向上と求職者のスキル向上に取り組めます。

〈教育・文化〉

■学校教育

新型コロナウイルス感染症対策の徹底と子どもの健やかな学びの保障の両立を図るとともに、子どもたちが自らの意思で進路決定や将来設計を行うため

に必要な意欲・態度や能力を育てるキャリア教育の推進、多様な性を尊重できる豊かな心を育む人権教育に取り組めます。

また、外遊びや体育学習などの充実を通して体力の向上を図るとともに、食育などを通して健康の保持増進の教育を推進します。

さらに、地域・家庭、関係機関との連携・協力によるいじめや問題行動の未然防止に取り組む、不登校傾向のある児童生徒への支援の充実を図ります。

■学校給食

給食調理業務への民間活力の導入により業務の効率化を図るとともに、衛生管理の徹底と地産地消を推進しながら献立内容の工夫を行い、バラエティ豊かで栄養バランスに配慮した安全で安心な給食を提供し、食生活に関する正しい理解や望ましい食習慣を養うために、積極的に食育を推進します。

■確かな学力を育む教育の推進

小中一貫教育9年間の連続した学びをさらに充実させ「多層指導モデル(MIM)」、「徹底反復学習」、「協調学習」の3つの学習プログラムを実施し、未来社会の創り手となる子どもたちに知識および技能の習得と思考力、判断力、表現力などを育

成する取組の充実を図ります。

また、ICTの活用により教育DXを推進し、子どもたちの力を最大限に引き出すための「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に努めるとともに、プログラミング教育、グローバル化に対応した英語教育の充実を図ります。

さらに、特別支援教育支援員の適切な配置などにより、児童生徒一人ひとりに応じた特別支援教育を推進します。

■生涯学習の振興

あらゆる世代のライフステージに応じたライフキャリアの形成を支援する学びの機会や情報の提供に取り組むとともに、生涯学習指導者の育成を図り、学習活動の成果を地域社会で活かせる環境づくりを推進します。

また、地域や社会教育団体などとの連携・協働のもと、子どもたちの安全・安心な居場所づくりを推進するとともに、様々な実体験を通じて未来の地域リーダーを育成する体制の充実を図ります。

■スポーツの振興

スポーツ協会、各種競技団体やスポーツ推進委員との連携を図り、スポーツイベントや各種スポーツ教室を実施し、気軽にスポーツに参加する機会を拡充

します。

また、4月に開館する総合体育館を中心にスポーツ大会などの誘致を行い、レベルの高い競技に触れる機会を創出することにより、スポーツによる交流人口の増加および地域の活性化を図ります。

■文化芸術の振興

「飯塚市文化振興マスタープラン」に基づき、文化活動団体と協働し、飯塚新人音楽コンクールや飯塚総合文化祭の開催など、文化芸術に親しむ機会の充実を図ります。

■文化財保護

嘉穂劇場については、運営再開に向けて、建物の修復および新たな活用策の検討について取組を進めます。

また、歴史資料館企画展および文化や歴史などの講座の開催を通して、本市の文化遺産の更なる発信・活用に努めます。

■国際交流・多文化共生の推進

姉妹都市である米国サニーベール市との交流が10年を迎えることから、両市の更なる友好交流を進めます。

また、国際交流事業や日本語教室を実施し、在住外国人が地域から孤立しない共生社会を推進します。

〈都市基盤・生活基盤〉

■災害・減災対策の充実

本市においても大規模な災害が発生する可能性があることから、大規模災害発生時の迅速かつ効率的な被災者支援を図るためのDX化を進めます。

また、地域で開催される各種イベントなどに合わせて防災関連の展示などの啓発活動を行い、市民に対する防災意識の高揚を図ります。

浸水対策については、「飯塚市防災(浸水)対策基本計画」に基づき、排水ポンプ場、遊水池、水路などの整備を進めるとともに、国・県・市が緊密に連携し、国の浸水対策重点地域緊急事業である県営河川庄内川および庄司川の浸水対策の推進に取り組めます。

■生活安全の向上

犯罪被害者に優しいまちづくりを推進するため、国や県と連携し犯罪被害者に対する直接的な支援とともに、啓発活動、情報提供に取り組めます。

また、警察や関係団体と連携して交通安全に関する啓発活動などに取り組む、市民の交通安全意識の更なる高揚を図ります。

消費者行政については、消費

生活のデジタル化など、複雑化・多様化する状況に的確に対応するため、専門相談員による相談業務および啓発活動を実施するとともに、消費生活センターの広域運営の充実に努めます。

■計画的な土地利用の推進

菟田・堀池地区活性化については、ゆめタウンの開業に合わせて、隣接する道路および公園の整備を行います。

また、「飯塚駅周辺地区整備基本計画」に基づき、地域活性化に資する賑わいのある拠点づくりに効果的な整備を総合的に推進します。

■定住環境の充実

良質な住宅を供給するため、老朽化が著しい市営住宅の建て替えや長寿命化を目的とした改修を推進します。

空き家対策については、「飯塚市空き家等対策計画」に基づき、快適な住環境の保全および適切な管理などについて、効果的かつ効率的に進めます。

■地域公共交通

「飯塚市地域公共交通計画」に基づき、コミュニティバス、予約乗合タクシー、エリアワゴンの運行を実施するとともに、民間公共交通機関の確保・維持に取り組みます。

■公園の整備

長期的に安定した維持管理や公園機能を維持していくため、「飯塚市公園等ストック再編計画」に基づき、適正配置や用途変更に伴う効率的な利活用に努めます。

■主要幹線道路網の整備

福岡都市圏へのアクセス強化や渋滞解消のため、八木山バイパス4車線化の早期完成を推進し、市内各地域への交通網強化を図るため、インターチェンジのフルランプ化の実現に向けて、国や県に対し、更なる要望を行います。

■県道および都市計画道路の整備

県道飯塚穂波線をはじめ、その他重要路線の整備、完成に向けた取組を推進します。

市道については、利用者の安全性確保のため、計画的に点検・補修を実施します。

また、都市計画道路の整備については、新飯塚潤野線の早期完成を図るとともに、本市の主要拠点を結ぶ基幹路線の事業化に向けて取り組みます。

■上下水道の整備

「飯塚市水道事業経営戦略」ならびに「アセットマネジメント計画」に基づき老朽管や老朽施設の更新・耐震化を図ると

もに、統廃合などを含む水道施設の最適化および適切な維持・管理に努めます。

下水道事業については、「飯塚市下水道事業経営戦略」ならびに「下水道ストックマネジメント計画」に基づき既存施設の効率的な更新・整備を図るとともに、個別処理となる区域においては、浄化槽設置整備事業を重点的に取り組むことにより、汚水処理人口普及率の向上に努めます。

〜自然環境〜

■環境にやさしいまちづくり

「第3次飯塚市環境基本計画」に掲げる基本目標の達成に向けて、市民、団体、事業者などと協働・連携し、SDGsの理念を踏まえた循環型社会を形成します。

今後の環境施設のあり方については、ふくおか県央環境広域施設組合と、その構成市町において連携し、ごみ処理およびし尿処理施設ならびに火葬場の各施設の再編や改築、更新など、中長期的かつ広域的な視点による効果的で効率的な環境衛生処理の推進に向けた施策に積極的に取り組みます。

〜移住・定住環境の充実〜

飯塚市に住む皆様の福祉の増進を図るとともに満足度を高め、未来に向けたまちづくりを積極的に取り組み、飯塚市への定住を希望する人を呼び込むことができるように努めます。

以上が、令和5年度の主な施策です。

本市の財政状況については、歳出では、高齢者、障がい者および子育て世代に対する社会保障関連経費や老朽化した公共施設の更新や長寿命化対策にかかる経費の増加が見込まれますが、今後も地域経済対策をはじめ、「子どもたちの未来を拓く教育のまち」、「高齢者が大切にされ、活躍できる福祉のまち」、「地元で働く場所がある活力あるまち」、「文化やスポーツが盛んな健康のまち」を目指した「未来に向けたまちづくり」の事業費も確保していく必要があります。

一方、歳入では、全国の皆様から多くのふるさと応援寄附金が寄せられ、まちづくりの貴重な財源として活用させていただいており、また、企業誘致による継続的な収入の増加が期待できる状況など明るい兆しがありますが、現状は、事業実施に際

しましては、これまで積立した基金を活用することで、事業の財源を確保している状況です。

このような状況を踏まえ、より一層、自主財源の安定的な確保に努めるとともに、既存事業の見直しや重点化など支出の改善に取り組み、「未来に向けたまちづくり」の財源の確保と、将来世代に引き継ぐことができる持続可能な行政運営を両立することにより、総合計画の都市目標像である「人が輝きまちが飛躍する住みたいまち」を住みつけたいまちの実現を目指します。

予算額については、

- 一般会計 …………… 874億2,800万円
- 特別会計 …… 542億9,642万6,000円
- 企業会計 …… 100億7,288万6,000円

総額1,517億9,731万2,000円を計上しています。